



水道橋畔発

第43号 令和8年6月

Contents

信頼をつなぐ、これからの医療連携

東京歯科大学水道橋病院副院長 口腔外科部長 渡邊 章

教授就任のご挨拶と 私たちの最新の取り組みについて

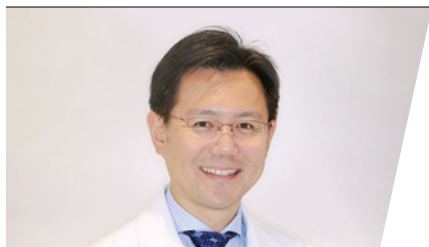
東京歯科大学水道橋病院 口腔外科 教授 菅原 圭亮
口腔病態外科学講座 主任

東京歯科大学水道橋病院 口腔外科のご紹介

東京歯科大学水道橋病院 口腔外科 医局長 西山 明宏

【コラム】 Q. 泣いてしまう小児患者に対して、 どのような対応を行えば良いですか？

東京歯科大学水道橋病院 小児歯科 助教 田中 亜生



信頼をつなぐ、これからの医療連携

東京歯科大学水道橋病院副院長 口腔外科部長 渡邊 章

このたび、東京歯科大学水道橋病院の副院長ならびに口腔外科部長を拝命いたしました。伝統ある本院の運営に携わる機会を賜り、身に余る光栄であるとともにその責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

これまで本院は、「思いやりの心による医療」を理念に掲げ、地域の先生方との緊密な連携のもと、高度で安全な歯科医療を提供してまいりました。また、医療安全、感染対策、そして地域医療連携の取り組みは、本院の基盤として着実に根付いております。今後はその流れを継承しつつ、より一層「顔の見える連携」を重視し、ご紹介いただいた患者様を安心してお任せいただける体制の強化に努めてまいります。近年、歯科医療を取り巻く環境は大きく変化し、超高齢社会への対応や全身疾患を有する患者様への包括的医療の提供が求められております。本院においても、各診療科・多職種が連携し、医科歯科連携を含めたチーム医療のさらなる充実を図ることで、安全で質の高い医療の実現を目指してまいります。

口腔外科部長としては、地域の先生方からご紹介いただく症例に対し、専門性の高い医療を迅速かつ的確に提供することを使命と考えております。腫瘍性疾患、外傷、炎症、顎変形症、口唇裂・口蓋裂をはじめとする先天性疾患、神経障害など幅広い領域に対応し、必要に応じて他科や関連医療機関と連携しながら、患者様にとって最適な治療を提供してまいります。また、治療後には安心して地域へお戻しできるよう、診療情報の共有や継続的なフォローアップにも一層注力してまいります。さらに、本院は教育機関としての使命も担っております。次世代の歯科医療を担う人材育成においても、臨床現場での実践的教育を通じて、高い倫理観と専門性を備えた歯科医師の育成に寄与してまいります。

今後とも、地域の先生方との信頼関係を基盤としながら、水道橋病院が地域医療における中核的役割を果たし続けられるよう尽力してまいります。引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶と 私たちの最新の取り組みについて

東京歯科大学水道橋病院 口腔外科 教授 菅原 圭亮
口腔病態外科学講座 主任

平素より水道橋病院に多くの患者様をご紹介いただきありがとうございます。

2026年4月1日付けで、東京歯科大学口腔病態外科学講座 教授を拝命いたしました。誠に身に余る光栄に存じますとともに、その責務の重大さに、あらためて身の引き締まる思いであります。

私は2004年に口腔外科第一講座に入局後、3年間(独)放射線医学総合研究所(現 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構)へ出向し、野間弘康教授、柴原孝彦教授、高木多加志病院教授、講座統合後は高野伸夫教授、内山健志教授をはじめ多くの方々から東京歯科大学千葉病院で指導をいただき、2012年に水道橋病院に配置換えとなり高野正行教授、齊藤 力教授のもと、2015年には口腔病態外科学講座の開設に際し講座異動となり片倉 朗教授のもとで研鑽を積んでまいりました。加えて、2021年にドイツ連邦共和国・ミュンヘン工科大学(Prof. KD. Wolff)への1年間の長期海外出張の機会をいただき、Microsurgeryを含めた頭頸部癌治療や口腔顎顔面外傷などの先進的な手術手技を学んでまいりました。

東京歯科大学口腔外科は、口腔顎顔面外科学講座(渡邊 章教授)と口腔病態外科学講座の2講座1診療科体制です。臨床においては両講座の医局員が外来のみならず手術室においても協同で患者様の診療にあたらせていただいております。今年度も、私が渡邊 章教授とともに全身麻酔下で手術を行わせていただく患者様もいらっしゃいます。今年の始めから口腔外科の平日および土曜日の初診枠を増やし、患者様の待機期間の短縮に努めております。また、急患対応が必要な患者様がおられましたら口腔外科受付にいつでもご連絡ください。

臨床におきましては、何よりもまず医療安全を徹底し、高い

水準の診断による「医療の質」と、安全かつ確実な手術による「安全な医療」とを両立させることを基本姿勢としています。そのうえで、現状に甘んじることなく、最新技術を積極的に取り入れ、革新的かつ高精度な手術術式の確立を目指してまいりました。

現在では多くの施設で使用され、保険収載された口腔粘膜蛍光観察装置の基礎研究(蛍光口スの病理組織学的評価)を行い、切除マージンの決定の科学的根拠を証明しました。この装置を用い多くの口腔粘膜疾患の診断、治療を行っております。また、2017年からCAD/CAM技術と、近年急速に進化を遂げているMixed Reality(MR)技術(図1)を応用することで様々な口腔顎顔面手術の精度および安全性の向上を実現しました。Le Fort I型骨切り術とオトガイ形成術(図2)での骨片移動と固定法の新しい術式を確立し、過去の3Dデバイスやカスタムメイドインプラントを用いた手術の報告より高い精度を実現しました。現在は、顎矯正手術のみならず抜歯術、腫瘍切除術、顎骨再建術にも様々なデジタルテクノロジーを応用しております。MR技術を上顎正中埋伏過剰歯の抜歯術(図3)に応用し、手術時間の短縮、合併症の予防につながることを報告しました。具体的には、CBCTからホログラムを作製しMicrosoft® HoloLens™にインストール、それを術中の患者に重ね合わせ、もしくは間接視野に置き抜歯術を行うことで、術者および介助者が術野から目を離すことなく3次元の画像情報を確認でき、誤抜歯や永久歯の損傷などを確実に回避することが可能となりました。

歯科大学病院の口腔外科には様々な制限がある一方で、補綴科、保存科、矯正歯科などそれぞれの専門性を持ち寄り、口腔機能を考慮した質の高い治療が提供できると考えます。わが国が迎えている超高齢社会において、口腔外科には従来以上に

(図1)Extended Reality:XR技術 現実世界において実際には存在しないものを表現・体験できる技術



大きな役割が求められています。基礎疾患やフレイル、認知機能低下など、全身状態への十分な配慮が不可欠であり、単に疾患の治療にとどまらず、口腔機能の維持・回復、さらには生活の質の向上までを見据えた包括的な医療が求められます。今後は、新しい時代の口腔外科のあり方を追求してまいりたいと存じます。

『精神一何事か成らざらん』、『Wo ein Wille ist, ist auch

ein Weg.』の信念を堅持し、微力ながらも情熱をもって、東京歯科大学水道橋病院の発展に貢献してまいる所存です。もとより浅学非才の身ではございますが、当院を受診される患者様、ご紹介いただいた先生方のご期待に応えられるよう最大限の努力をしてみたいと存じます。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(図2) CAD/CAM+MR技術を用いたオトガイ形成術

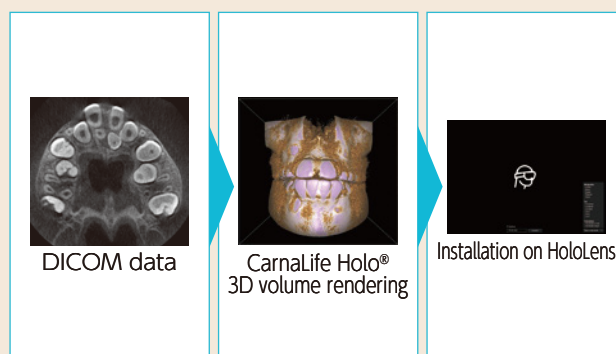


ホログラムの術野への投影

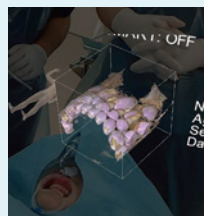


HMDを装着した術者間で同一のホログラムを共有

(図3) MR技術を用いた上顎埋伏過剰歯抜歯術



Microsoft® HoloLens



各学会の専門医・指導医 一覧

学会名	専門医人数	専門医	指導医人数	指導医
日本口腔外科学会	21	片倉 朗、渡邊 章、菅原 圭亮、柴原 孝彦、高野 正行、佐々木 研一、田中 潤一、須賀 賢一郎、伊藤 亜希、別所 央城、高久 勇一郎、吉田 秀児、西山 明宏、加藤 宏、林 幸央、秋元 善次、星野 照秀、小谷地 雅秀、小山 侑、加藤 禎彬、松崎 勇佑	16	片倉 朗、渡邊 章、菅原 圭亮、柴原 孝彦、高野 正行、別所 央城、高久 勇一郎、佐々木 研一、田中 潤一、須賀 賢一郎、伊藤 亜希、吉田 秀児、西山 明宏、加藤 宏、林 幸央、星野 照秀
日本口腔科学会			7	片倉 朗、菅原 圭亮、別所 央城、高久 勇一郎、西山 明宏、林 幸央、星野 照秀
日本顎変形症学会	7	(認定医) 片倉 朗、渡邊 章、菅原 圭亮、伊藤 亜希、吉田 秀児、星野 照秀、小谷地 雅秀	5	片倉 朗、渡邊 章、菅原 圭亮、伊藤 亜希、吉田 秀児
日本有病者歯科医療学会	2	星野 照秀、林 幸央	2	片倉 朗、柴原 孝彦
日本口蓋裂学会	4	(認定師: 口腔外科分野) 渡邊 章、須賀 賢一郎、伊藤 亜希、吉田 秀児		
日本顎顔面インプラント学会			4	片倉 朗、柴原 孝彦、高野 正行、佐々木 研一
日本口腔腫瘍学会			3	片倉 朗、柴原 孝彦、高野 正行
日本口腔診断学会			3	片倉 朗、高野 正行、星野 照秀
日本口腔内科学会	4	片倉 朗、西山 明宏、星野 照秀、林 幸央	3	片倉 朗、西山 明宏、星野 照秀
日本老年歯科医学会	1	片倉 朗	2	片倉 朗、柴原 孝彦
日本小児口腔外科学会			1	片倉 朗
日本抗加齢医学会	1	星野 照秀		
日本顎関節学会			1	片倉 朗



東京歯科大学水道橋病院 口腔外科のご紹介

東京歯科大学水道橋病院 口腔外科 医局長 西山 明宏

平素より東京歯科大学水道橋病院口腔外科へ患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

当科では、地域の先生方との連携を大切にしながら、口腔外科疾患全般に対して専門的かつ安全な診療を提供しております。

日本口腔外科学会指導医・専門医を中心に、多数の医局員が診療に従事しており、外来診療から入院加療、全身麻酔下での手術まで幅広く対応しております。

1. 診療体制と診療内容

口腔外科は、口腔顎顔面外科学講座(渡邊章教授)と口腔病態外科学講座(菅原圭亮教授)の2講座制1診療科として、外来および入院診療を通じて、専門性の高い口腔外科治療を2つの講座が協力して実施しています。診療内容は口腔癌、顎変形症、口腔顎顔面領域の神経損傷と口腔粘膜疾患、顎関節疾患、口腔乾燥症、舌痛症、顎堤萎縮症に対して口腔内外の自家骨、人工骨を用いた骨造成法(サイナスリフト、GBR法など)、顎骨再建など口腔顎顔面領域における様々な疾患の治療に各分野の専門性の高い歯科医師が対応しています。そして口腔外科領域はもとより、口腔内科・口腔診断・老年歯科医学・有病者歯科医療・口腔腫瘍・顎関節など関連する多岐にわたる領域の学会認定資格を有する指導医・専門医(図1)の指導のもと、全身管理を要する症例に対しても、医科診療科との緊密な連携のもとで安全性を最優先とした治療を行っています。患者様の病態に応じて専門性を有する医局員が診療にあたり、必要に応じて院内他科とも連携しながら治療方針を決定しております。

また、術後の機能評価および長期経過観察を重視し、教育・研究で得られた知見を診療に反映させることで、常に質の高い医療の提供に努めています。

初診受付は基本予約制としており、平日および土曜日の9時～11時30分までの枠で診療を行っております。

そのため予約診療による優先性と安全性を重視し、初診時には医療面接、画像検査、診断説明を中心に行い、観血的処置は原則として再診時に実施しております。ご紹介いただく際はこの点につきましてはご理解いただきますようお願いいたします。

また土曜日は再診枠を設けておりませんが、初診での診療を主体としており、平日と比較して診療枠の拡充を行っております。土曜日の初診を希望される患者様に少しでも多く対応できる体制を敷いております。

2. 急性期神経機能修復外来について

2015年から末梢性三叉神経障害(下歯槽神経・舌神経)を対象とした「急性期神経機能修復外来」を開設しております。抜歯、インプラント治療、嚢胞摘出術、歯内療法など歯科治療後に生じた神経障害症例に対し、専門的な診断および治療を行っております。

診療では、画像検査、精密触覚検査、知覚神経活動電位

導出法などを用いて詳細な評価を行い、経過観察を含めた総合的な診断を実施しております。

重度神経障害症例に対しては、神経修復術を含めた外科的治療も行っております。

全国から患者様をご紹介いただいております。発症早期での受診が望まれるため、神経障害を認めた際には早期にご相談いただけますと幸いです。初診は専門の歯科医師が対応いたしますので、口腔外科受付に連絡をいただき、症状の経過をお伺いして受診日を決定いたします。初診での診察時間の目安は1時間～1時間30分となります。

3. 入院・手術体制

水道橋病院は20床の入院設備を有し、顎矯正手術、良性腫瘍手術、悪性腫瘍手術、顎骨嚢胞手術、末梢神経修復術、唇顎口蓋裂関連手術など、多岐にわたる入院手術に対応しております。主な手術症例は、顎変形症 約300症例/年、口腔癌 約30症例/年、唇顎口蓋裂 約30症例/年です。

術前には医局内で症例検討会を行い、手術術式および周術期管理について十分な検討を行ったうえで治療にあたっております。

また、入院患者様に対しては複数の担当医によるチーム医療体制を採用し、安全で安心できる入院管理に努めております。

必要に応じて摂食・嚥下リハビリテーション科や補綴科等と連携し、機能回復やリハビリテーションまで含めた包括的な口腔管理を行っております。

4. 地域連携について

当科は、地域医療機関の先生方との連携を非常に重要視しております。

患者様をご紹介いただいた際には、診断・治療内容を適切にご報告し、地域完結型医療の実現を目指しております。現在、口腔外科初診(指定医なし)は連絡をいただいてから2週間程度で予約が可能となっております。

急性症状を有する患者様につきましては、当日の初診担当医の判断にはなりますが、可能な限り当日対応を行っております。

今後とも地域の先生方との連携を深めながら、患者様に質の高い口腔外科医療を提供してまいります。

対象となる患者様

口腔外科疾患全般

ご紹介方法

各常勤歯科医個人へのご紹介、
または口腔外科宛のご紹介

待機期間

各常勤歯科医個人宛：1～2 か月程度
口腔外科宛：ご連絡後 2 週間程度
急性症状を有する患者様については
当日対応を行う場合があります。

病院長 副病院長 副病院長 副病院長	田口裕 西井康 平田創 上田貴 渡邊章	令和8年6月1日現在	
		東京歯科大学水道橋病院 診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)	

診療科名	職名	氏名	講座名
保存科	客員教授	古澤 成博	歯内療法学
	特任教授	吉田 隆	
	准教授	山田 雅司	
	講師	田宮 貴己	
	助教	岩澤 弘樹	
		番場 桃子	
	レジデント	倉持 仁	歯周病学
		谷 洸希	
		江川 加奈	
		高原 千枝	
		中島 克真	
		呉 家瑜	
	教授	齋藤 淳	保存修復学
	准教授	今村 健太郎	
	講師	山下 慶子	
	助教	久永 理央	
		宮田 直樹	
	レジデント	銅治 賢吾	
		森 心汰	
		岡林 大暉	
		戸矢 壮磨	
		村松 敬	
補綴科	部長・教授	杉戸 博記	老年歯科補綴学
	准教授	春山 亜貴子	
	講師	半場 秀典	
	医局長・講師	関矢 日向子	
	助教	三谷 佳歩	
	レジデント	附田 孝仁	
	部長・教授	上田 貴之	クラウンブリッジ補綴学
	医局長・准教授	竜 正大	
	准教授	中島 純子	
	講師	高野 智史	
	助教	太田 緑	
		中澤 和真	
	レジデント	小林 富史	パーシャルデンチャー補綴学
		小田 希	
		大友 顕一郎	
		國府田 尚暉	
		羽根田 傑	
	教授	関根 秀志	
	臨床教授	佐藤 亨	口腔顎顔面外科学
	准教授	野本 俊太郎	
	講師	四ツ谷 護	
	助教	酒井 貴徳	
		黒田 祥太	
	レジデント	平野 瑞穂	
		大和田 碧	
		大熊 宏岳	
		鎌田 政一	
		菊地 清	
口腔外科	副学長・教授	山下 秀一郎	口腔顎顔面外科学
	教授	田坂 彰規	
	客員准教授	堀田 宏巳	
	講師	大平 真理子	
	助教	小林 裕	
		北村 旭	
	レジデント	加藤 雄人	口腔病態外科学
		伊東 紘世	
		木村 遼太	
		荒木 美汐	
		松添 裕一郎	
		河野 祐佳	
	部長・教授	渡邊 章	口腔顎顔面外科学
	客員教授	柴原 孝彦	
	講師	高野 正行	
		吉田 秀児	
	助教	加藤 宏	
		林 宰央	
	レジデント	有泉 高晴	口腔病態外科学
		村松 賢太郎	
		松崎 勇佑	
		井川 瑞葵	
		福本 由寿香	
		西村 仁希	
口腔外科	学長・教授	片倉 朗	口腔病態外科学
	教授	菅原 圭亮	
	医局長・講師	西山 明宏	
	講師	小山 侑	
	助教	小谷地 雅秀	
		加藤 禎彬	
	レジデント	立澤 孝太郎	
		伊藤 聡吾	
		神原 悠介	

診療科名	職名	氏名	講座名
歯科麻酔科	部長・教授	松浦 信幸	歯科麻酔学
	准教授	小鹿 恭太郎	
	医局長・講師	吉田 香織	
	助教	飯村 真理子	
		姜 裕奈	
		関 真都佳	
矯正歯科	レジデント	津谷 瑠理	歯科矯正学
		西野 桃加	
	部長・教授	野村 莉花	
		西井 康	
	客員教授	末石 研二	
		片田 英憲	
	准教授	石井 武展	歯科矯正学
		立木 千恵	
	講師	有泉 大	
		山下 悠	
	医局長・助教	薄場 はるか	
		多田 優	
	レジデント	勝田 真央	
		小鹿 槇子	
		新井田 張	
		星 沙弥佳	
		遠藤 百華	
		小林 葵	
小児歯科	部長・教授	菅家 杏珠	小児歯科学
		藤森 加帆	
	医局長・准教授	石黒 沙帆	
		小林 邑生	
	講師	伴 茉莉	
		連見 英哲	
	助教	新谷 誠康	小児歯科学
		櫻井 敦朗	
		辻野 啓一郎	
		本間 宏実	
口腔インプラント科	部長・教授	田中 亜生	口腔インプラント学
		平井 研吾	
	医局長・准教授	渡辺 麻衣子	
		岩澤 有華	
	講師	井野 詩絵里	
		窪山 裕也	
	助教	藤澤 美奈	口腔健康科学
		佐々木 穂高	
		古谷 義隆	
		平野 友基	
口腔インプラント科	部長・教授	原田 惇朗	口腔インプラント学
		重松 正樹	
	医局長・講師	牧野 将大	
		黒田 玲奈	
	講師	新村 佳太	
		福田 謙一	
	助教	大多和 由美	口腔健康科学
		加藤 栄助	
		國奥 有希	
		太田 雄一郎	
口腔インプラント科	部長・教授	松永 健	口腔健康科学
		高尾 千紘	
	医局長・講師	槌本 彩由子	
		中島 一憲	
	講師	筒井 新	
		石田 瞭	
	助教	大久保 真衣	口腔健康科学
		〈加藤 栄助〉	
		若村 竜秀	
		後藤 多津子	
放射線科	部長・教授	岡野 友宏	歯科放射線学
		音成 実佳	
	客員教授	小高 研人	
		佐藤 仁美	
	講師	松元 秀樹	
		和田 大岳	
	助教	井上 綾一	病理学
		松坂 賢一	
		橋本 貞充	
		國分 克寿	
臨床検査科	部長・教授	中島 啓	病理学
		(明石 良彦)	
	客員教授	山本 圭	
		西田 次郎	
	講師	仁科 牧子	
		ビスセン 弘子	
	助教	太田 友香	病理学
		緑川 桂佳	
内科	科長・特任教授	西田 次郎	病理学
	特任教授	仁科 牧子	
眼科	特任教授	ビスセン 弘子	病理学
	科長・准教授	太田 友香	

() 長期出張中 () 兼務

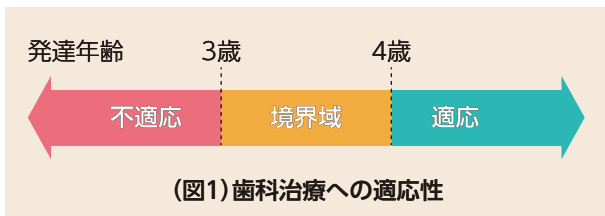


【コラム】Q. 泣いてしまう小児患者に対して、どのような対応を行えば良いですか？

東京歯科大学水道橋病院 小児歯科 助教 田中 亜生

A. 歯科診療を行うにあたり成人と小児で最も異なることは何でしょうか？それは「診療を行うスタートラインに立てるかどうか」です。スムーズに治療へ移行できない原因は、大きく分けて2つ考えられます。

まず1つ目は、小児の発達が未熟で、まだ歯科治療を受けることができないことです。小児歯科では、学習のための準備状態を示す「レディネス」という概念を重視します。具体的に申しますと、歯科治療を受けるにあたり発達年齢が達しているかどうかということです(図1)。



一般的に歯科治療においては、発達年齢が4歳に達するとレディネスが備わり、多くの小児が激しい拒否反応を示さずに受診可能になります。しかし、3歳未満の小児ではレディネスが備わっていないため、トレーニングを重ねても泣いてしまうのは自然な反応です。この発達年齢の場合は「泣くのは仕方ない」と割り切り、「短時間で適切な処置を終えること」を最優先してください。ここでの短時間で適切な処置というのは、無理なCR充填やフッ化物塗布で経過観察することではなく、フッ化ジアンミン銀溶液(サホライド®)や非侵襲的修復療法(ARTテクニック)などで齲蝕進行抑制を行うことです(図2)。特にフッ化ジアン



(図2) 協力が得られない小児に対する齲蝕進行抑制処置

ミン銀溶液は着色のデメリットがあるものの、齲蝕進行抑制効果は非常に高く、保護者の理解を得たうえで積極的に活用すべき手法です。3歳以上4歳未満の小児ではレディネスの境界域であるため、個人差が非常に大きい時期です。小児の様子を慎重に見極める必要があります。

次に2つ目です。歯科治療に対するレディネスが備わっていても、歯科治療には多少なりとも苦痛や不安が伴うことが多いため、小児が拒絶するのは当然の心理です。成人のように「自身のメリットのために今の痛みを我慢する」という論理的思考は小児では困難です。少しでも不安を和らげるため、特に歯科治療未経験の小児に対しては行動変容法を用いてトレーニングを1、2回実施してから治療を行うことをお勧めします。具体的にはミラー、ポリッシングブラシ、エアー、バキューム、タービンの歯科治療器具に慣れもらうトレーニングを行っておくとよいでしょう。なお、2回トレーニングを行っても一向に協力が得られない場合、無理に執着せず、速やかに専門機関へ紹介することを検討してください。根気強くトレーニングを続けすぎると協力性は上がらないまま齲蝕が進行し、結果として、保護者・患児・歯科医院の三者にとって不利益な状況を招きかねません。「早期の適切な判断」も大切なスキルの一つです。



東京歯科大学 水道橋病院

住 所	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18
電話番号	03-3262-3421 (代表)
ホームページ	https://www.tdc.ac.jp/sh/



東京歯科大学水道橋病院

検 索

ご紹介のお願い

初診時は、最適な治療を行うため、「診察・検査」を行い、2回目来院時までには治療計画を立案いたします。緊急性がある場合を除き、初診時には治療を行いませんので、紹介時に患者様へのご説明をお願いいたします。また、予約のない初診患者様は待ち時間が長くなるため、初診の予約をとるよう患者様にお伝えいただけますと幸いです。